

## クリスマス目前！ ケーキには欠かせない 12月上中旬、西尾のイチゴ出荷が冬の山場

クリスマスを目前に控えた12月上中旬、JA西三河いちご部会（木村忠弘部会長）のイチゴの生産・出荷が山場を迎えます。最盛期には1日に25,000パック（1パック270個）を出荷の予定。クリスマスケーキ用の需要の高まりに合わせ、今シーズンのイチゴ生産の冬の山場を迎えます。

同部会では12月、業務用イチゴの出荷も行います。需要の特に高い10日から22日までの間に、合計約15万パックが出荷される見込み。1パック310個の専用パックを用いており、やわらかい素材を用い、イチゴを置く場所に穴をあけることで荷傷みを避けています。階級はケーキに適した2L・L・Mの3種。

同部会はクリスマス前の需要期の出荷に特に力を入れており、部会の規模からくる安定した出荷量と、衛生面・品質面の高品質が、大手製菓業者からの高い評価を得ています。



小牧センターでの選果・出荷風景  
生産者が輪番制により選別を行う

### ■取材対応日■

【日時】12月11日（月）午後4時30分

【集合】JA西三河 小牧センター

（西尾市吉良町小牧梶見堂3

電話：0563-35-0246）

### ■今年のイチゴの作柄（11月24日現在）

9月～10月の日照不足の影響から、生育は1週間から10日遅れていますが、大きな病害虫の被害もなく、品質面での問題はありません。

11月の気温が例年より低かった影響から、大玉傾向となっています。

### 【JA西三河いちご部会 概要】

部会員数：95人

耕作面積：約17.3畝

出荷量：1,033ト（平成28年実績）

収穫期：11月～6月

（出荷量ピークは4月）

# 西尾市のイチゴ生産の概要

～決戦はクリスマス！ 単価高い12月上旬に出荷ピークあわせる～

## ■西尾のイチゴ生産の特徴■

J A西三河いちご部会では97人の生産者が高設栽培（章姫）・土耕栽培（紅ほっぺ）でイチゴを生産しています。

クリスマスケーキ用の需要が高まる（＝単価が高まる）12月上旬に一番果のピークを迎えられるように栽培していることが特徴。8月ごろにイチゴ苗に夜冷処理を施して花芽を分化させており、早い人では10月下旬から出荷をスタート。例年11月中旬にはすべての部会員が出荷を始めます。12月には連日収穫・出荷が行われ、イチゴ農家はとても忙しい日々が続きます。



## ■「虫」をもって「虫」を制す

### 天敵の利用で農薬使用を抑制■

同部会では農薬（殺虫剤）の利用の抑制とコスト低減・省力化のため、天敵（害虫を捕食する別の虫など）を利用した防除を行っています。

2015年より、イチゴの重要害虫であるハダニの発生を抑えるため、天敵資材「バンカーシート」を導入しました。これはハダニを捕食するダニの「ミヤコカブリダニ」を保護して効果的に増殖するための小さな箱状の資材で、ミヤコカブリダニを長い期間放飼でき、ハダニの発生を抑制します。



「バンカーシート」を設置するイチゴ農家

## ■4月の朝採りイチゴ

### より新鮮でおいしいイチゴ出荷めざして■

同部会では毎年4月、「朝採りイチゴ」の出荷を行っています。「朝採りイチゴ」は市場では『午前0時以降に収穫し、その日のうちに小売店へ届く』ものと定義されています。

農家は毎日午前2時～3時ごろから収穫作業を行い、午前8時には小牧センターへ出荷。昼から夕方ごろには西尾市周辺のスーパーに並びます。

春を迎えて気温が上がると、収穫後のイチゴの品質低下が早まります。朝採りの取り組みにより、通常の出荷（午前中～昼間に収穫・箱詰め、夕方～夜に集出荷、小売店の開店時間から販売）よりも運搬時間が短く、消費者へより新鮮なイチゴを届けることができます。また農家は高単価で取引でき、収益を増やすことができます。



朝採りイチゴの出荷（今年4月）

### 【生産者部会情報】

名称：J A西三河いちご部会

部会員数：95人 耕作面積：約17.3㌥

流通先：愛知県・石川県・新潟県

出荷量：1,033ト（平成28年実績、業務用出荷等含む）（愛知県では市町村単位で1位）

収穫期：11月～6月（ピークは4月）

### （全国の生産概況）

全国のイチゴ出荷量：145,200ト

愛知県のイチゴ出荷量：8,860ト（東海地方では静岡県（9,740ト）に次ぐ2位）

データ：農林水産省 作況調査（野菜）平成27年度確報

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001164543>